

Catch the eye 2017年5月

2017/5/3
(水)

自習

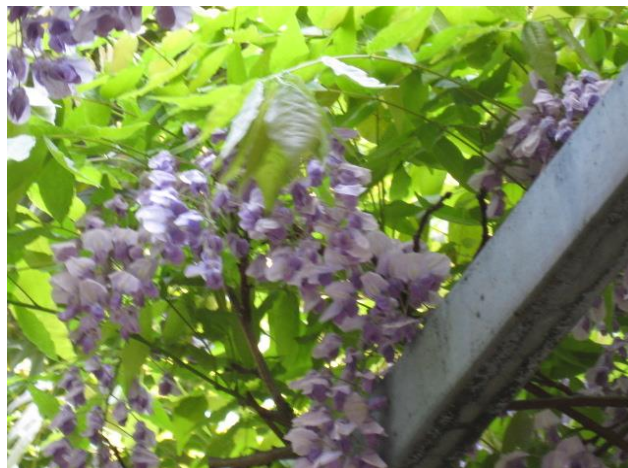
大型連休、今日も晴れて行楽日和。暑くなく寒くもなく、日も長くて、新緑も清々しい。どこも人はいっぱいのはず。こういう時こそ、あまり動かず、仕事や日頃しないことをする。ビル全体を独り占めしている感。

先週28日、クレオ大阪子育て館で同窓会があった。クレオ大阪北館で2007年に開講した『プロ講師になろう塾』10周年記念の集い。2007年から3年、そしてアドバンスとして2014年から3年。わかる範囲で声をかけ、参加13名。そのうち5名は初期一年目の受講者。

何事も初の試みは、やる方も受ける方も、〈ふたを開けてみないとわからない〉。だから予想外のことがあっても、前向きにとらえて、プラスにしていく。そういう意気込みがある。あるいは初々しさと言っていいかもしれない。だから懐かしさが増し、参加も多くなったのではないか。

『こんなにハードだとは思わなかった』という声は、初期からずっと変わらない。講師は手段、先を見ずえて今何をすべきかを考える。最終回のプレゼンまでいくと、〈一皮むけた〉と感じる受講者も少なくない。そして、大事なものは、その後。

独立した人、企業の中で才を発揮する人、副業的に続ける人、等々。そろそろ次のステージに立たなければいけない人もいる。そのステージをどう創るか。迷いと悩みが付きまとうはず。そういう時こそ、自分で勉強、「自習」を勧める。他人の知恵は自分のものにはならないから。

2017/5/8
(月)

流れ

大型連休も終わり、これから8月のお盆までは実務に精を出す3ヶ月。カラッとした新緑のこの気候も今のうち。

今朝はやはり寝起き一番にフランスの選挙が気になった。結果を知って、まずは「われ先」の流れが繋がらずにすんだ。

世界は広くて狭い、物事は複雑で簡単、人間は多様で画一。相反するものが一体となって運び、営まれる環境。

さて明日の韓国大統領選挙はどうだろう。民主化から30年、通貨危機から20年。若者が希望持てる国になるか、いよいよ試金石。

『われわれはどこへ行くのか』。時流を読み、自流を司る上で、自他ともに、今の動きと状況に観察の目を。

2017/5/12
(金) 社会の要請

夕方になり、雲ってきた。今日は気温が高くなると聞いていたから、暑くならない服装で出て来たら、当ビルに今年初のクーラー。そういう時期になりました。

フランスも韓国も、まずは落ち着くところに落ち着いた結果の大統領選。しかし容易に想像できる困難なかじ取り。期待が大きければ落胆も大きくなる。

「われ先」があたり前になってしまうと、神経質な社会になってしまう。それではいけないと思う人がいるから、世の中守っている。BBCは「スローニュース」に軸足をおくと紹介していた。

スローニュース？ スクープを追うのではなく、ニュースを深掘りする姿勢をそう呼んでいるらしい。最近出た本に、「深い勉強」を勧めるものもあった。これらも社会の要請。

根底にあるもの、事象の背景、真の原因、そういうことがあるはずだと直感できるセンスをもちたい。知性も感性も一夜にして養われず。自分でしっかり学び、考える習慣を続ける、否、身体化することと言えそう。

2017/5/16
(火) うつぼ公園

新緑の季節、この時期ばかりは街なかの風景も目にやさしい。



2017/5/19
(金) 『数学する人生』

いましかない今年の新緑を目に吸い込む。すき間の時間に街なかの公園を歩く、なるべく人の少ないところを選んで。雑木林の中、大きな石に腰かけ、本を読む。さらさら、さらさら。風にすれる枝葉の音がやけにやさしい。もう少しすると、その音も重くなる。今のうち、新緑を堪能しよう。

「やはり印象でなければ役に立たない」。ああ、そう、そういうことですねと、『数学する人生 岡潔』（森田真生編）を読みながら、心の中で頷いた、合点がいった。『自業のすすめ』に書いた、「記録していないけど、記憶していること」はそういうことだ。何かの印象をもったから、その時の光景と言葉が記憶に残っているわけだ。

新聞でいろんな本の広告や書評を見るが、買うのは本当に稀。でも自分にとってこれというものは外していない。今回は初めて『数学する身体』（森田真生）を知った。でも著者が薫陶を受けた「岡潔」に関心をもった。この季節に読んだということもあるのか、何かしら懐かしく、過去の情景に自分が入り込むような、そんな感じがした。

気にとまった箇所に付箋を立てることにしたら、いつのまにか乱立するほどになった。読み終えて、書きとめた。この記録を自分のために見ることは当分ないと思う。来年の新緑の頃か、また別の時かに開くことになる、懐かしさ、郷愁のようなものを感じて。

2017/5/20 大阪城公園 よく晴れた夕暮れ、城石に新緑の影
(土)



2017/5/25 雨上がりのバラ なんばで人に会う約束。少し早めに事務所を出て、雨上がりの新緑とバラをもとめてうつぼ公園。散歩の時間が少なくなると、唯一の運動もしなくなるということ。まもなく梅雨、今のうちに歩いておかなければ。
(木)





アジサイがそろそろ待機。



2017/5/26 本のレビュー
(金)

水曜の夜から昨日午前にかけて雨だった。その後曇り空が続
き、今日はお昼前から晴れてきた。今日明日は湿度が低めでカ
ラッとすするらしい。5月も下旬、近畿の梅雨入りも秒読み、貴重
な薫風五月の晴れ間。

今年は読書と「自習」を公私ともに働きかけることにしている。ここでもそれにちなんで書くことにして、前回話題にした『数学する人生 岡潔』。ちょっと意外な感じもしたのだけど、会った時に「あの本…」と話を切り出した人が一人、二人。若い人たちの中に、何か足りない、何か違う、そう感じていることの答がこの本の中にあると直感したよう。

同じ本を読んでも人によって感じ方、捉え方が違う。それはよくわかっていることだけど、いつか、アマゾンのカスタマーレビューを読んだ時はビックリした。もともとレビューをチェックするタイプではない。たまたま発行年度を確認したくて、『モンテーニュ 初代エッセイストの問いかけ』（荒木昭太郎 中公新書）を検索したのだった。

真逆も真逆、まったく否定的な感想が書かれていて、えーっ?!。モンテーニュと著者が一体化したような、今の世にモンテーニュがよみがえったようなそんな文章に吸い込まれていったのだけど、そういった執筆姿勢を酷評していた。読み手によってこんなにも受けとめ方が違うとは、ただただ唾然とするばかり。

やはり自分で当たることが肝心。人からきっかけをもらいつつ、自分のアンテナに照らしてみる。合う点もあれば合わない点もある。そういうことを繰り返していけば、アンテナに磨きがかかるというもの。

そういえば思い出す。かつて恩師が門下生たちのために開いていた読書会。ある時大衆小説をとりあげた恩師に一人の門下生が、「そんな本」と否定的なことを言った。すると恩師が「君、それはだめだよ…」と諭したのだった。その光景が今も印象に残っている。知を閉ざさず、グローバルであれと教えられた気がする、今から思えば。